

半減袋デザインワークショップ
実施報告書



2010.11.27
at 葉山町教育総合センター

1 目的

本ワークショップは、葉山町が燃やすごみの指定袋として導入を検討している「半減袋」を、使用者とのコミュニケーションの手段として捉え、そのデザインを町民の視点から考える機会として実施しました。デザインのアイデアを抽出するだけでなく、デザインを考える過程を通して、葉山のごみの現状、ごみ半減の必要性、ごみ袋に求められる要素について理解を深めることを目的としています。

2 概要

主催：ゼロ・ウェイスト推進委員会 葉山町

日時：平成22年11月27日（土）14時～17時

場所：葉山町教育総合センター会議室1

ファシリテーター：百武ひろ子氏

参加人数：26人（うちゼロ・ウェイスト推進委員会委員5人）

事務局：環境課職員4人

3 プログラム

はじめに、「半減袋」の趣旨を環境課から、またワークショップの方法、スケジュールについてファシリテーターから説明し、その後作業に入りました。

作業1 こんなごみ袋あったらいいな

「こんなごみ袋あったらいいな」という「夢」を、記入シートに書いて（5分）、その発表を兼ねて参加者の自己紹介を行いました。参加者からはさまざまなアイデアが発表されました。

- 図柄

目盛り（分量がわかるようにする）／メタボのイラスト／かわいらしさ／夢がある絵／半分を強調したデザイン／おしゃれ／かわいい生き物／イラスト例（木、魚、ひまわり、子ども、アンパンマン）

- 情報

へらすためのコツ／スローガン（お説教くさくなく）

- 袋の色

一色だと安い／カラフルなほうがいい／葉山は青！／葉山は緑！／収集する人に目立つように／透明で中身が見えるように

● その他

底敷があったほうが安定してよい／持ち手があったほうが良い／ない方がよい



発表の様子



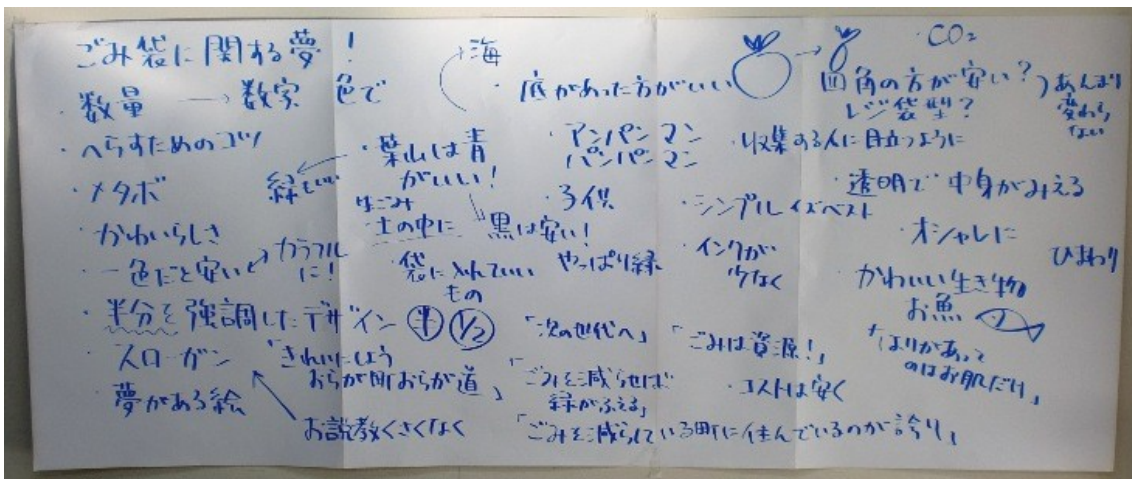
参加者の記入シート



参加者の記入シート



参加者の記入シート



発表されたさまざまなアイデア

ごみ袋ってどんなもの？

ファシリテーターが、ごみ袋の歴史、他自治体の指定袋デザインの傾向などについて解説をしました。



スライドを使った説明

作業2 グループワーク

5グループに分かれ、各グループで大切にしたいデザインの考えを話し合いました。最後には、イラストまたは文字でグループの考えを発表しました。

(グループ1)

文字が少なくシンプルに
色もすっきり一色で
透明は行き過ぎなので半透明に
おもしろいデザイン、おしゃれに
捨てたくない袋
3サイズを「色」「パターン」で分ける



グループ1

(グループ2)

ごみ出しが楽しくなることが重要
シンプルで美しく、コストがかからないもの



グループ2

(グループ3)

戸別収集では、容器に入れて出すので、出す人が楽しくなることが重要

春、秋の2バージョン作ってはどうか
レジ袋を利用しないのはエコではないのでは??

袋の形は持つところがあつた方がよい

シンプルで字の少ないデザイン

葉山らしい色を決める

入れた量がわかるほうが良い

袋を余らせたくないような動機付けが必要



グループ3

(グループ4)

メジャーで分量がわかるようにする

木のイラスト(量が増えるほど木が小さくなる)

両サイドにのみイラストを配置



グループ4

(グループ5)

戸別収集なので、ごみ袋はごみを出す人のためと位置づける

デザイン重視で情報はミニマムに

「かわいくてカラフルなデザイン」と「分別方法、意識、スローガン」が両立するのが夢の袋!

葉山らしさ…富士山、葉っぱ、鳥居

むしろポリバケツのデザインが重要…!?



グループ5

作業3 全体ディスカッション

気に入ったデザイン、コンセプトに投票し、全体のディスカッションを行いました。



投票の様子

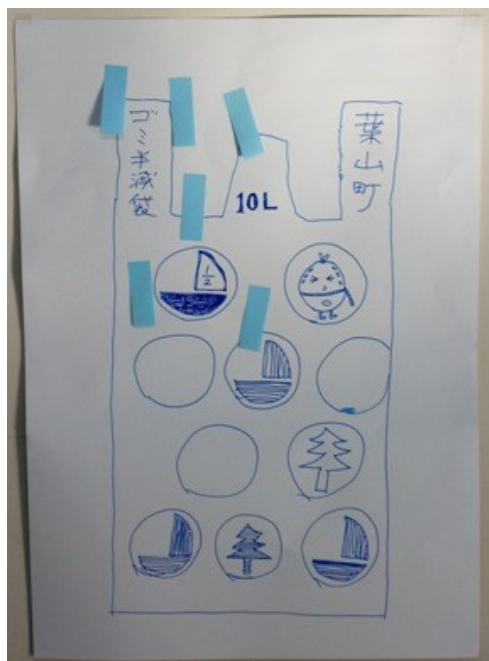
<方向性についての主な決定事項>

- 色
半透明／「葉山らしい色」として「青」「緑」が多くの支持を得た
- 持ち手
持ち手はあったほうが良い
- 余剰袋
余らせなくなる動機付けを町で検討する
- デザイン
グループ1の「水玉」、グループ4の「両サイドに配置」が多くの支持を得た
- アイコン
ヨット、木 +1（富士山、鳥居、葉っぱ…?）
- パターン
サイズ毎にデザインを変えるという案が多くの支持を得た
(サイズ毎は図柄が同じでも版が変わるため、図柄を変えてもコストは変わらない)

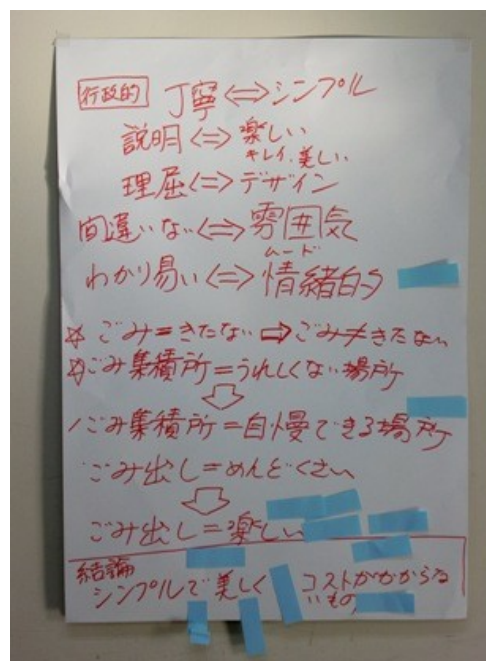
<その他の議論>

- シーズン毎にデザインを変える
→版代（1つ4万円程度）や、引き替えに伴う事務量が増える
- 戸別収集で竹のごみ箱を使用すれば景観的にも良いのでは

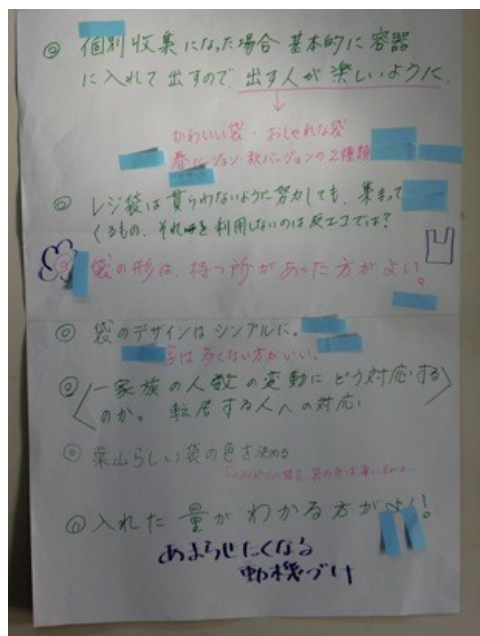
(各グループの発表資料)



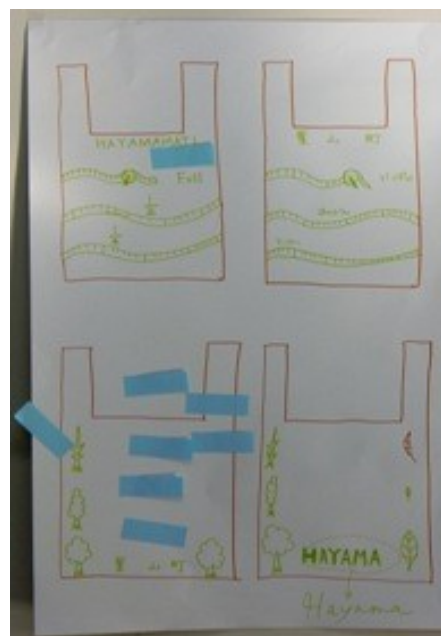
グループ1



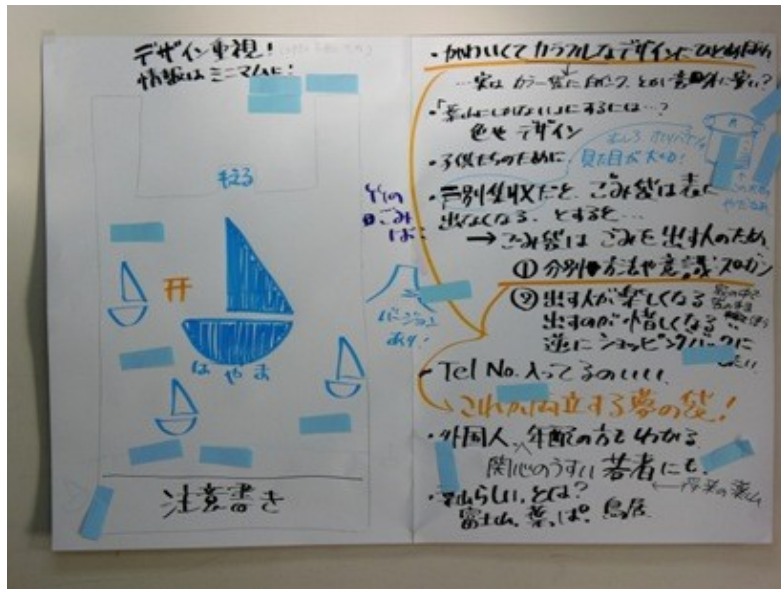
グループ2



グループ3



グループ4



グループ5

おわりに

ワークショップ当日は、これまでの行政によるごみ関連の行事には参加したことがないという新しい顔もたくさん見られ、「デザイン」という新しいキーワードによって関心を持つ市民の層が広がったことを実感しました。

議論が深まっていくなかで、ごみ袋というツールを通して、「どうすれば使用者に減量のメッセージを伝えられるだろうか」ということに多くの参加者が思いを巡らせ、さらに「葉山らしさとはなんだろう?」というまちづくりのコンセプトにつながるより大きな問いへの発展がみられました。また、「めんどろ」「強制」といった負のイメージが伴いがちであるごみ問題をテーマとした会であるにも関わらず、会場には明るい笑い声が響き、とても前向きな雰囲気最後まで実施することができました。これらのことから、ワークショップの目的は十分に果たされたと言えるでしょう。

当日出されたアイデアは、専門家によって具体的なデザインに表されることとなっています。この袋が、近いうちに葉山町で指定袋として使用され、ワークショップ参加者の思いが使用者に届くことによって、ごみの減量がさらに進むことを期待します。

ゼロ・ウェイスト推進委員会
葉山町